



高校教育改革をなぜ行うの?

近年、グローバル化や情報化による産業や働き方の変化など、社会が急速に変化し、多様化しています。そのため、高校では、子どもたちが社会に出たときに自分の力を発揮できるよう、一人一人の能力や関心、希望する進路に応じた教育を行うことが求められています。

また、全国的に少子化が進む中、本県の中学校卒業生数は、平成元年をピークに、大幅に減少してきています。今後は、平成29年度からの4年間で2,100人以上減り、その後も減少することが見込まれています。

このような中で、本県の高校教育をさらに充実させていくためには、高校教育改革を行うことが必要です。

中学校卒業生・見込み者数の推移



H29→H33 卒業生は約11%減少

高校教育改革の2本柱

県教育委員会では、少子化に対応するとともに、県全体・各地区の教育水準を維持・向上させ、これからの時代を切り拓いていくことのできる人材を育成するために、高校教育改革推進計画を作り、取り組みを進めています。

この計画は、「特色ある高校教育の推進」と「県立高校の再編整備」が2本の柱となっています。

【公立高校全日制学校数と1学年当たりの学級数】

	H元年	H29年	H33年
学校数	73校	66校	62校(予定)
1学年学級数	506学級	328学級	290学級程度
		(-178学級)	(-38学級)

高校教育改革推進計画 (平成24年度～平成33年度の10年計画)

群馬県 高校教育改革

検索

特色ある高校教育の推進

教育の質的充実

社会の変化に対応できる子どもを育てる

社会の変化や生徒の多様化に適切に対応するためには、高校教育の質的充実が必要です。生徒が自分の人生やこれからの時代を切り拓いていけるよう、個性や能力を最大限に伸ばし「たくましく生きる力」を育てるため、各高校で生

徒一人一人の能力・適性・興味・関心、進路希望に対応した教育を行っています。授業改善、大学や企業との連携、専門教育の充実など、さまざまな取り組みがあります。

県立高校の再編整備

学校規模の適正化

学校・学科等の適正な配置

男女共学の推進

- 適正規模の維持が見込まれない学校については、統合を検討
適正規模は、1学年当たり4～8学級(1学級40人)
- 統合を行わない学校も学級減や1学級定員の引き下げを検討
- 全県的な視点で、各地区に一定規模の学校の配置を推進
- 再編整備に併せて男女共学を検討

● 適正な学校規模の維持がなぜ必要?

少子化により学級数を減らし、生徒の減少が進むと、生徒のさまざまな学習ニーズに対応することが難しくなったり、学校の活気が失われてしまったりします。

高校教育の質を維持・向上させ、学校を活性化し、特色化を進めるとともに、子どもたちが学校生活を通して、社会性を高めるためには、適正な学校規模を維持する必要があります。